

祐善寺だより

第30号

発行日

2013年7月8日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



一人一人の苦しみに

身を添わせること

そこにしか真宗は

開かれない

祖父江文宏

法句に憶う

住職

岡崎

賢

私たちは、誰もが皆、「我が身の幸せ」を追い求めて生きていると言っても過言ではありません。そして、その「幸せ」とは、あくまで他人との比較の中で設定されていることが殆どであります。つまり、他人よりも自分は、或いは自分の子どもは、良い会社に入り、良い給料をもらって、良い人と結婚して、良い家庭を築いて、親子心配なく暮らしていきたい。もしかすると、そのような、「願い」に裏付けされて、私たちの毎日の頑張りがあるのかもしれない。そして、そのこと自体は、決して悪いことではなくて、むしろ、私たち人間に具わった知性を向上させる大きなはたらきとして、大変重要なことでもあります。

ただ、ここで、私たちが忘れてはならないことがあります。この地球上には、約七十億人の人々が暮らしています。飢餓に苦しみ、貧困に苦しみ、難病に

苦しみ、様々な差別に苦しみ、あえぎながら「我が身の幸せ」を追い求めることもできずに、その日暮らしを余儀なくされている人たちの数を数えることができませぬ。生きる希望を失ってしまった若者の数も、年々増える一方です。

児童文学者の灰谷健次郎さんは、「人間は自分の幸福のために生きるのではない。人間が幸福を求めるのは、他人の不幸にがまんならないからである。」と書いておられます。宮沢賢治さんは、さらに、「世界が全体しあわせにならぬうちは、個人の幸福はありえない」とまで教えて下さっております。

祖父江さんの法句は、まさにその線上に書かれたものです。「二人一人の苦しみに身を添わせること」。私たち、凡夫の身であるからこそ、他人の苦しみを共有することができる地平が開かれているのです。

福井教区

親鸞聖人七五〇回御遠忌記念
ご旧跡研修旅行に思う 野村明良

六月四日、祐善寺御任職のお伴を
して研修旅行に参加させて頂きまし
た。初めはるるん。約四時間後新
潟居多ヶ浜に到着。親鸞聖人流罪と
なり、流れ着いた最初の地でありま
す。このあたりから私の気持ちも気
合が入り、真剣な研修の始まりで
す。行く先々で勤行、そして説明を
聞き、又バスで移動。そして説教。
ここでも一生懸命話を聞き、私の邪
心もなくなり真面目に話を受け入れ
る様になりました。

一日目からお参りしたお寺の由緒
を少しでも皆さまに聞いて貰いたい
気持ですが、何分にも内容が多す



流罪の地・越後の「親鸞聖人御上陸之地」
石碑前にて (6月4日)



親鸞聖人御田植歌御旧跡碑 (茨城県水戸市) で
説明を聞く参加者 (6月5日)

ぎて頭がパニック状態。これから勉
強をして前に進もうと思っていま
す。二日目、つくばグランドホテル
出発。今日も勤行、法話、史跡めぐ
りと念佛の絶え間がありません。
私は今迄ただ漠然としてお寺にお
参りをしていました。祐善寺には
先祖、親、兄弟が祀られ、そして自
分の行く所でもある事を一層強く感
じた次第です。三日目も親鸞聖人の
足跡をたどり十時ごろようやく箱根
芦の湖に到着。湖上遊覧の船上でわ
れに返り、ふり返つて見ると御開山
様の偉大さを感じた次第です。

今回の旅
行には妻と
二人で参加
させてもら
い今も尚、
旅行の話題
が切れませ
ん。本当に
良かったです！
御住職なら
びに関係者

今回の旅
行には妻と
二人で参加
させてもら
い今も尚、
旅行の話題
が切れませ
ん。本当に
良かったです！
御住職なら
びに関係者

の方々に対し、心からお礼を申し上
げおわりとします。



関東より京都への帰途、親鸞聖人は付き添ってき
た門弟たちと別れたと伝えられる「箱根/わかれ石」
(6月6日)

◆祐善寺納涼祭2013
ボランティア募集◆

・とき 7月15日 (海の日)

10時集合

・ところ 祐善寺本堂 境内

「祐善寺納涼祭2013」の
準備、運営を支えて下さるボラ
ンティアの募集をしております。
ご協力いただける方は、祐
善寺までご連絡くださいませ
う、お願いいたします。当日の
みのお手伝いも、大歓迎です。
いろいろと、お手伝いをしてい
ただくことは、たくさんありま
すので、よろしくお願いたし
ます。いっしょに祐善寺の納涼
祭を楽しみたいと思います。

平成25年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互って護持
していただくために、護持費を
お願いしておりますが、今年も
次のとおりご志納下さいますよ
うよろしくお願ひします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
(〇〇七七〇―九一三〇七二一)
- ・ 加入者(祐善寺)

◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

花だより



今回、一ヶ月ほどの入院生活を余儀なくされ、その間に心ならずも多くの方々のお世話になった。今日は祐善寺のご住職が、『花だより』の原稿のことでお出で下さった。

お帰りになってから、こんな格好で『花だより』の原稿とは苦しいなあ、ほんやり病室の天井を眺めて



いた時、去年の秋訪れた東北各県での思い出が蘇った。観光地の殆どは十数年前に訪れた時とあまり変わりがなかったが、地震や津波の爪痕が痛々しい地域も少なくなかった。

二日目にお世話になったホテルで、壁に飾ってある星野富弘さんの作品に気がついた。星野さんは中学校へ教師としてお勤めの頃、授業中の怪我のために手足の自由を失われた。

その後、口にくわえた筆で花の絵や詩などを書いて、発表されている。今、あのホテルの壁に飾ってあった作品を正確に思い出すことはできないが、そこには華やかなユリの絵に次のような詩が添えられていたように思う。

男タルモノ
花になど
見とれていて
よいのか
しかし 男タルモノ
花の美しさもわからず
女の美しさを語るな

私は花が好きだ。薔薇や蘭などの豪華な花もいいが、あざみやネジバナ、つゆくさのような野に咲



く花はもつといい。土手の草刈りの時などに、可愛い花を見つけると思わず座り込んでしまったり、刈り払うことが出来なくてそこだけ丸く刈り残したりする。だが私の意識のどこかに、花を愛でることは男として些か恥ずかしいことという気持ちで潜んでいた。だから私はこれまで、人様の前で花についての自分の気持ちを語ったことはない。

だが、星野さんの詩に勇気づけられた私は、早速旅先から親しい友人に便りを書いた。『女性の美しさを語るために、貴方も野の花大好き人間になりませんか。』
(軍)

平成二十五年度の 年忌法要を お勤め下さい！

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、貴家の過去帳等を御確認していただき、皆様にとられてかけがえない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいますよう、お願いいたします。

- 五十回忌 昭和三十九年没
- 三十三回忌 昭和五十六年没
- 二十五回忌 平成元年没
- 十七回忌 平成九年没
- 十三回忌 平成十三年没
- 七回忌 平成十九年没
- 三回忌 平成二十三年没
- 一周忌 平成二十四年没

滝波五智如来

仏像修復にあたり

福井市滝波町 田中茂美



五智如来ですので五体の仏像があり、他の四体も含め計九体をお堂に安置しています。本尊大日如来を中心に薬師如来・宝生如来・釈迦如来・阿弥陀如来他に観世音菩薩・地藏菩薩それに多聞天・持国天です。これらの仏像は平安時代末期・藤原時代の作と言われ、当初は今のお

堂の前を流れる滝波川の一km程上流の対岸嵯峨山に高野山・薬王寺という大きな寺院群の一つに五智如来堂が有ったと考えられています。その後、天正二年越前一向一揆で打ち壊され焼失しますが、これら仏像は、後年「ほらが谷」と呼ばれる谷に投げ捨てられたのを、滝波の先人達が滝波川に筏を組んで運び現在の地に安置しました。

江戸時代にお堂の再興、改築、仏像修復の記録があり、その間滝波が松岡藩時代には藩主が祈願した様に、先人たちの信仰を集め、手厚く守られてきました。お堂は平成十年に新築し五智如来の五体は平成十二年、県の文化財の指定を受け現在に至っています。

前々から仏像の損傷が進み、この度本尊の大日如来を修復に出すことになりました。修理後は千年来のお姿に戻ると聞いており、今のお姿を参拝できる最後となり、この機会に広く県民の方に知って頂きたく、五月十九日に特別公開

をし、仏事・行事を行いました。

御祈祷、お精めぎの仏事、その間お堂の脇に湧く「ごつつまの水」で野点を行い、茶請けに、五智如来の仏事に必ずお供えする「小豆飯」を付けました。仏像を運搬の為梱包する間、学芸員の藤川明宏氏（朝日観音任職）による仏像講座を参拝者に聴講頂きました。

五〇〇名近く参拝頂き、多くのTV・新聞に報道され無事仏像を搬出できました。

今回の修復で何か新しい事実が発見され、謎が少しでも解明されればと念じ、千年来前のお姿を拝観出来る事を楽しみに修復事業を進めて参りたいと考えております。



桑原繁男様（越前町西田中）には、平成二十四年十二月十五日、行年八十八歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



濱野洋子様（福井市菜崎町）には、平成二十五年一月二十五日、行年八十二歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



佐々木カツエ様（福井市田原町）には、平成二十五年三月十六日、行年九十三歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



渡邊フミオ様（越前町小倉）には、平成二十五年五月六日、行年七十九歳にて往生の素懐を遂げられました。ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



御伝鈔(上)講座

第5回

救世菩薩、善信にのたまわく、「此は是我が誓願なり、善信この誓願の旨趣を宣説して、一切群生にきかしまむべし」と云々

善信は、この誓願の内容を広く説き、あらゆる民衆に聞かせなさい

爾時、夢中にありながら、御堂の正面にして、東方をみれば巖々たる岳山あり、その高山に数千万億の有情群集せりとみゆ。

そのとき、夢の中にありながら、御堂の正面において、東の方を見るわけわしくそびえたつ山があり、そこに数千万億の人々が群れ集まっているのが見えました。

そのとき告命のごとく、此の文の「ころを、かの山にあつまれる有情に対して、説ききかしまむおわるとおぼえて、夢悟おわりぬと云々

そのとき、御命にしたがって、この文の意味を、その山に集まつた人々に対して、説き聞かせ終わつたと感じて夢は覚めた、と。

情此の記録を披きて彼の夢想を案ずるに、ひとえに真宗繁昌の奇瑞、念仏弘興の表示なり。しかれば聖人、後の時おせられてのたまわく、仏教むかし西天より興りて、経論いま東土に伝わる。是偏に上宮太子の広徳、山よりもたかく海よりもふかし。

よくよく、この記録を開いてこの夢を考えると、ひとえに真宗が繁昌し、念仏の教えが広く興ることのめでたい端緒が示されたのであります。よって、聖人は、後におっしゃったのですが、仏教はその昔、インドから興って、経典、論釈は、今、日本に伝わっています。これは、偏に聖徳太子の広大な恩徳であり、それは、山よりも高く海よりも深い、と云えるのです。

吾朝、欽明天皇の御宇に、これをわたされしにゆりて、すなわち浄土の正依経論等、此の時に来至す。儲君もし厚恩をほどこしたまわすは、凡愚いかでか弘誓にあつことを得ん。

わが国の欽明天皇の御世にこれらをいただいたことよって、すなわち、浄土の教えの正しく依るべき経典、論釈などは、この時、伝え至つたのです。聖徳太子が、もし厚き恩を施してくださらなかったならば、愚かな凡夫は、どうして弘誓にあつことができたでしょう。

「御伝鈔」(本願寺聖人伝説)とは――

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人の生涯を絵詞に著したもので、詞は、親鸞聖人の曾孫である覚如上人(本願寺第三世)の撰述です。親鸞聖人の没後・三十三年の永仁三年(一二九五年)に十三段からなる初稿本が作られました。建武三年(一二三六年)の戦火により本願寺と共に、焼失してしまいました。康永二年(一二九六年)に書き直されるのを機に、御伝鈔と御絵伝を別立てにされ、上巻八段・下巻七段の十五段と二段増補されました。

詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において「御絵伝」を余間に奉掛し、厳肅に「御伝鈔」が拝読されます。

其の26



出 棺

浄土真宗の教えにあつ言葉とあわない言葉	
教えにあつ言葉	あわない言葉
浄土／彼の土／西方浄土／極楽浄土	草葉のかけから／黄泉の国／天国／冥土
浄土へ還る／往生する	冥土に旅立つ／天国に昇る／安らかに眠る／神のもとに召される／永眠する
しるんで念仏する／悼む／悔やむ	冥福を祈る／霊をなぐさめる
浄土に還つた方／成仏した方	地下の故人／霊／御霊(みたま)

葬儀(告別式)のお勤めがすみましたら、遺族・親族・近親者でお別れの対面をします。故人を偲(しの)びつつ、静かに合掌しお念仏申します。お別れが終わりますと出棺です。

出棺に際しては、喪主または親族の代表が、会葬者にお礼の挨拶(会葬御礼)を述べます。挨拶は、短く要点をおさえますように。

- その内容は、
- ① 会葬者に心から感謝の意を表する
 - ② 故人への厚情を謝し、生前のことにふれる
 - ③ 遺族へも故人と同様の厚誼(こうぎ)をお願ひする
 - ④ 残された家族一同、精進して生きる決意を述べる
- と、なりましよう。

葬儀での挨拶をお聞きしますと、「冥土(めいど)に旅立つ」「草葉のかけから見守る」「天国に昇る」「安らかに眠る」などの言葉をよく耳にします。それらは、死後の世界を想定し、人が亡くなること、その世界に行くという考え方です。浄土真宗では従来、人が亡くなること、「浄土にお還(かえ)りになられた」と表現してきました。浄土(仏さまの世界)は、死後の世界を想定して言つたものではありません。浄土とは、仏さまの教えに出あい、生きる知恵と勇気と安心を賜(たま)った者のみが感得する世界のことなのです。その感得こそ、亡き人を浄土に還られた仏として受けとめることができるのです。亡き人を仏として合掌し、お念仏申すのも、亡き人からの問いかけ、命の尊さに気づかされてのことなのです。

最後に、会葬御礼の一案を簡略してご紹介します。

本日は、故〇〇・法名釈〇〇の葬儀にあたり、ご多用中ご会葬くださり、誠にありがとうございます。

故人の生前中、公私ともに一方ならぬご厚情を賜り、厚くお礼申し上げます。故人は、賜った命を大切に生きてきましたが、このたび〇〇歳で浄土に還りました。

私も遺族は、肉親の死をとおして、今ほど命の尊さを感じたことはありません。この思いを故人の願いと受けとめ、いただいた命を一日一日、精いっぱい精進して生きていこうと思ひます。

今後とも、故人同様のご指導・ご鞭撻(べんたつ)を賜りますようお願い申し上げます。

(「サンガ」より)

お知らせ

永代経会

八月七日(水)

十一時半

御齋

一時半

永代経会法要

二時

布教 正円寺住職

(福井市荒谷町)
佐々木正博師

三時二十分

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から
願いをかけられて生かされて
いただいている私達が、亡き
人に感謝申し上げる法会であ
ります。

このかけがえのない法会
に、ご家族、ご親族、ご法友
お誘いあわせの上、何卒ご参
詣下さいますよう、ご案内申
上げます。
合掌



祐善寺

納涼祭2013

とき 7月15日(海の日)

午後3時~

メニュー

流しそつめん・バーベキュー

フランクフルト・ビンゴ&

カラオケ大会 などなど

祐善寺で催される納涼祭も、お
かげさまで、今年で四回目を迎え
る事となりました。一回、二回と
回をかさねるたびに、参加してく
ださる方が少しずつ増え喜んでい
ます。より多くの方たちに来てい
ただきたい、楽しい集いにしたい
との思いで、実行委員は、考えを
出しあい計画をしました。今年も
赤ちゃんをはじめ、お子さま、若
いかた、歳を重ねた人たちのおこ
しを、心よりお待ちいたしており
ます。懐かしい人との再会や、思

いがけない人との出会いを喜びあ
い、夏の日のひとつときを、心から
楽しんでいただきたいと思います。思
います。祐善寺での出会いは、尊
しいです。

まだ一度も参加されていない方
は、ご都合をつけて、是非ともお
こしください。毎年参加してくだ
さっている方は、今年も是非とも
おこしください。皆さまとお逢い
できますことを、楽しみにお待ち
いたしております。

今年も、例年より早い時期なの
で、うぐいすが、きれいな声で
「ホーホケキョ」と鳴き、歓迎し
てくれることでしょう。(桑原)



祐善寺納涼祭名物=流しそつめん

編集後記

神社やお寺にお参りする時の一般
的な作法を紹介します。

◆神社

- 鳥居の前で衣服を整え一揖する。
(鳥居は、聖域と下界の境界線で、入
る前に一揖する)
- 手水舎で身を清める。
- 右手で柄杓を持ち左手を洗う。
- 左手に持ち替えて右手を洗う。
- 右手に持ち直し、口をすすぐ。
- 柄杓を縦にして、柄を洗う。
- 元の場所に柄杓を伏せて置く。
- 参拝する。
- 一揖しお賽銭を入れて鈴を鳴らす。
- 深く二回、お辞儀をする。(二礼)
- 右手が少し下になるよう手を合わ
せ、柏手を二回打つ。(二拍)
- 深くお辞儀をする(二礼)

◆お寺

- 山門の前で一拝する。
(山門は聖域と下界の境界。参道の中
心は「正中」と言)
- 手水舎で身を清める(神社と同じ)
- お線香を上げる。
- 参拝する。
- 一揖し、お賽銭を上げる。
- 胸の前で合掌して礼拝する。
- 一揖する。

(渡辺千代)